

**首都高速道路株式会社  
第14期（平成31年3月期）  
決算説明会**

**令和元年6月6日**

# 連結決算の概要

(単位：億円)

	H31/3期	H30/3期	増減
営業収益	3,862	4,460	△598
営業費用	3,823	4,457	△634
営業利益	38	2	36
経常利益	42	4	37
税引前利益	44	161	△116
法人税等	15	56	△40
親会社株主に帰属する 当期純利益	29	104	△75

- ▶ 弊社グループの連結決算では、営業収益は前期比13.4%減、営業費用は同14.2%減。主な要因は、前期に晴海線（晴海～豊洲）、板橋・熊野町JCT間改良工事等（762億円）の完成、引渡があったことによるもの。
- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益は29億円（前期比71.9%減）。前期に特別利益として、厚生年金基金代行返上益の計上があったことによるもの。

【参考】厚生年金基金代行返上益に係る影響を除いた場合

親会社株主に帰属する 当期純利益	29	0	28
---------------------	----	---	----

(注) 端数処理の関係で計が合わないことがあります。

# 高速道路事業の損益状況（連結）

（単位：億円）

	H31/3期	H30/3期	増減
<b>営業収益</b>	<b>3,437</b>	<b>4,143</b>	<b>△706</b>
内：料金収入	2,686	2,701	△14
内：道路資産完成高	748	1,440	△692
<b>営業費用</b>	<b>3,410</b>	<b>4,154</b>	<b>△743</b>
内：道路資産賃借料	1,937	1,877	60
内：道路資産完成原価	748	1,440	△692
内：管理費用等	724	835	△111
<b>営業利益</b>	<b>26</b>	<b>△10</b>	<b>36</b>

- 料金収入は、首都圏ネットワーク整備の進捗に伴う利用形態の変化等の影響により前期比0.5%減。  
なお、交通量は対前期比1.4%増、101.4万台/日
- 道路資産完成高は、建設事業、改築事業及び修繕事業等の引渡しを実施し、前期比48.0%減
- 管理費用等は、前期に料金徴収施設更新に係る固定資産除却損があったこと及び点検・補修の強化を実施したこと並びに当期は雪凍対策費が減少したことにより前期比13.3%減
- 上記の結果、高速道路事業の営業利益は26億円

# 関連事業の損益状況（連結）

（単位：億円）

	H31/3期	H30/3期	増減
<b>営業収益</b>	<b>431</b>	<b>323</b>	<b>108</b>
<b>駐車場事業</b>	<b>32</b>	<b>31</b>	<b>0</b>
<b>受託事業</b>	<b>359</b>	<b>260</b>	<b>99</b>
<b>その他の事業</b>	<b>38</b>	<b>30</b>	<b>8</b>
<b>営業費用</b>	<b>419</b>	<b>310</b>	<b>108</b>
<b>内：受託事業</b>	<b>359</b>	<b>259</b>	<b>99</b>
<b>営業利益</b>	<b>12</b>	<b>12</b>	<b>△0</b>

- 駐車場事業は、主に都市計画駐車場(5箇所)と高架下等駐車場(59箇所)を運営しており、営業収益は前期比1.5%増とほぼ前期並み
- 受託事業は、横浜環状北西線のシールドトンネル工事等が進捗したことにより、営業収益は前期比38.2%増、営業費用は同38.5%増
- その他事業は、休憩所施設及び高架下賃貸施設の運営・管理等を行っており、営業収益は前期比26.3%増
- 関連事業全体の営業利益は前期比4.6%減の12億円

# 連結財政状態



( ) 内は平成30年3月末からの増減

- 資産の部は、仕掛道路資産について、横浜環状北西線、特定更新等工事などの進捗による増、工事完成に伴う高速道路機構への資産引渡しによる減などにより、資産残高は4,507億円
- 負債の部は、新規路線建設の資金調達、高速道路機構への債務引渡しにより、負債残高は3,854億円
- 純資産の部は、前期に計上した厚生年金基金代行返上益の高速道路事業分142億円を安全対策・サービス高度化積立金として計上。純資産残高は652億円

# 単体決算の概要

(単位：億円)

	H31/3期	H30/3期	増減
営業収益	3,818	4,422	△603
高速道路事業	3,437	4,143	△706
関連事業	381	278	102
営業費用	3,805	4,443	△638
高速道路事業	3,428	4,170	△741
関連事業	377	273	103
営業利益	13	△21	34
高速道路事業	8	△26	35
関連事業	4	4	△0
経常利益	19	△11	30
税引前当期純利益	20	144	△124
法人税等	4	46	△42
当期純利益	15	97	△81

【参考】厚生年金基金代行返上益に係る影響を除いた場合

当期純利益	15	△6	22
-------	----	----	----

# 第15期（令和2年3月期） 連結業績見通し

# 第15期（令和2年3月期）の連結業績見通し

（単位：億円）

	R2/3期	H31/3期	増減
営業収益	5,451	3,862	1,589
料金収入	2,678	2,686	△8
道路資産完成高	2,376	748	1,627
関連事業	397	431	△33
営業費用	5,439	3,823	1,615
営業利益	11	38	△26
経常利益	10	42	△31
税引前利益	8	44	△36
法人税等	3	15	△12
親会社株主に帰属する 当期純利益	4	29	△24

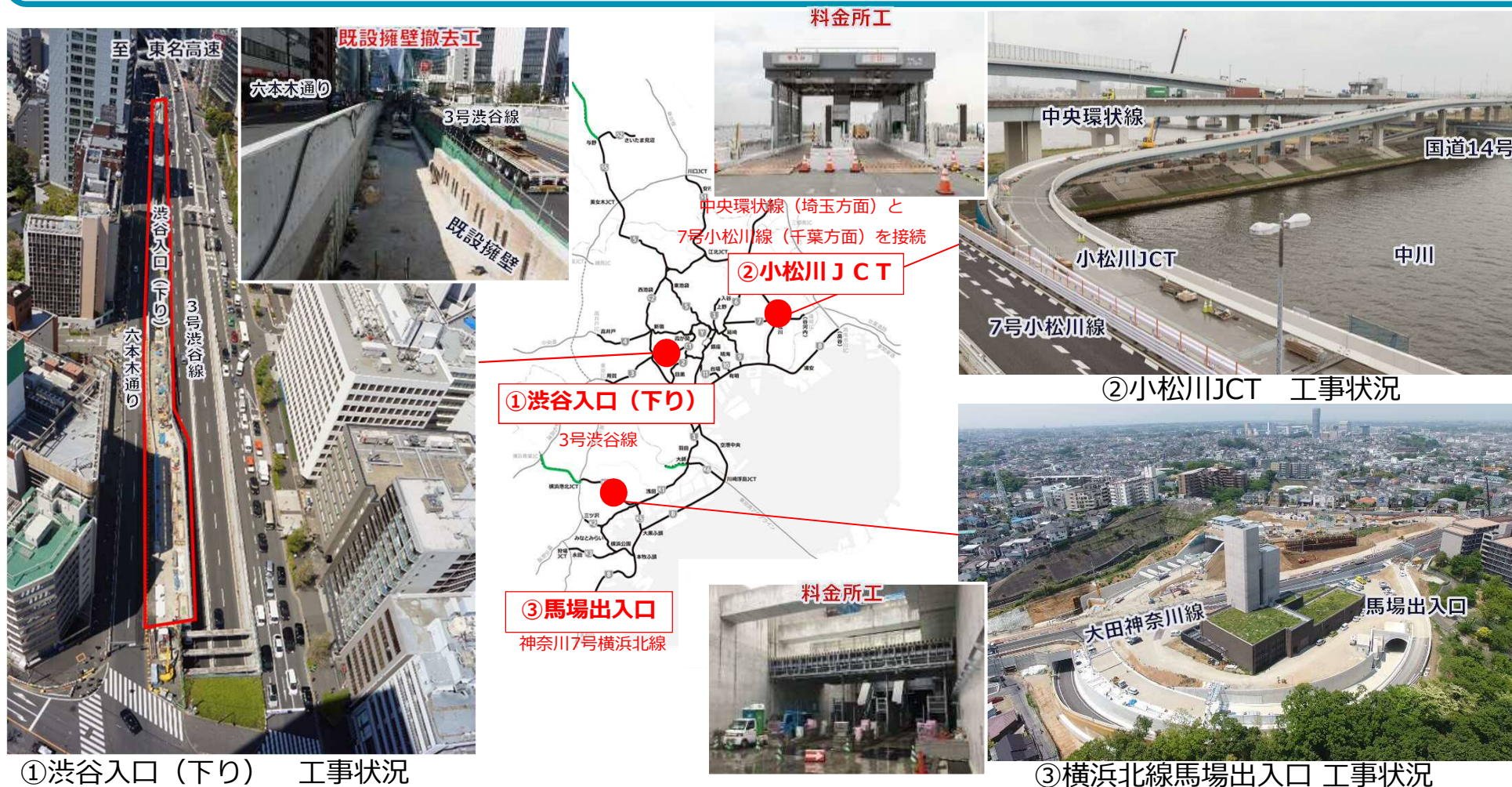
（注）見通しについては、様々な要因により変化するものであり、将来の業績等を保証するものではありません。



# 【参考】令和元年度の主な施策について

# [ 1 ] 令和元年度の主な施策 ① 開通予定箇所

- 渋谷入口（下り）： 既設擁壁撤去工、料金所工等を実施中
- 小松川 J C T： 料金所工等を実施中
- 馬場出入口： 料金所工、関連街路（大田神奈川線）の整備等を実施中



# [ 1 ] 令和元年度の主な施策 ②横浜環状北西線

- 高架部：桁架設工が完了（平成31年4月）。床版工、料金所工等を実施中
- トンネル部：内部構築工、設備工等を実施中



写真① 横浜青葉JCT部（桁架設状況）



写真② トンネル部（内部構築工状況）



写真③ 横浜港北JCT部（桁架設状況）

## [ 2 ] 道路の適切な維持管理 ～安全・安心・快適への取り組み～

- 道路を安全な状態に保つため、きめ細かな点検、監視、維持・補修を実施
- 橋梁、トンネル、附属物は、省令に基づく接近点検が完了
- 交通情報を把握する的確な監視、計画的な維持・補修により、お客様に安全で安心な首都高を提供

### 1 点検



高所作業車による構造物接近点検



特殊高所技術による構造物接近点検

### 2 監視



施設管制室での監視



CCTVによる車両状況監視

### 3 維持・補修



雪に伴う凍結防止剤の散布と路面状況の把握



恒久足場\*の設置

※ 恒久足場: 主要幹線道路上等の、首都高の点検や補修が困難な箇所において、維持管理性を向上させるために恒久的に設置した足場

# お問い合わせ先

首都高速道路株式会社 財務部 決算課

TEL : 03-3539-9540 (直通)

〈URL〉 <http://www.shutoko.co.jp/>